

SIGNIS JAPAN ニュースレター

タリタ・クム! 起きなさい!

発 行: SIGNIS JAPAN (カトリックメディア協議会)

代 表:千葉茂樹

発行所: 〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42

聖パウロ女子修道会内

Tel 03 - 3479 - 3941 E-mail: info@signis-japan.org

http://signis-japan.org/

ご復活おめでとうございます。東日本大震災から1年、さまざまなかたちで追悼集会が行われました。今回は SIGNIS メンバーから震災に関して寄稿してもらい、復興を願って特集を組み、特大号となりました。暗く沈んだ1 年から復興に向けて私たちに何ができるのか考える意味でも皆さんに「タリタ・クム! 10号 とお届けします。

ニュース)全国広報担当者会議

2011年11月15日から17日まで、仙台で全国広報担当者会議が開かれました。こ の会議は、各教区の広報担当者と女子パウロ会、サレジオ会、サンパウロなどのカト リック系の出版社の関係者が参加しました。SIGNIS の参加は2年前に続き2回目で、 今回は千葉会長と私、土屋が参加しました。もっとも女子パウロ会の Sr. 清水、サン パウロの Br. 洗川、そして中央協議会広報の藤崎さんも SIGNIS であるのですが。

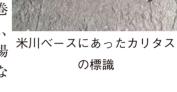
初日の集まりのハイライトは元中央協広報部長を務められた Sr. 長谷川の基調講演 でした。震災時被災地のメディアの対応についての報告がありました。もっとも興味 深かったのは、地方新聞といわゆる朝日、読売などの新聞の比較についての話でした。

2日目は仙台教区サポートセンターの小松崎神父のガイドによって被災地を視察し



南三陸町の漁師さんのもとで魚網の繕いをしている カリタスのボランティアの皆さん

ました。南三陸町、米川ベース、石巻 ベースを訪問しました。南三陸町では、 実際にボランティアが働いている現場 **川ベースにあったカリタス の魚網を修理をしている工場みたいな ところを見せてもらいました。



3日目はこの会議の振り返りと今後の地方開催の可能性につい て話し合われました。全国の広報担当者と被災地で交流できたと いうことは大きな意義があると思います。この意義を実りと結び つけるために、今 SIGNIS に何ができるのか、ずっと考え続けた 広報担当者会議でした。(土屋)

第 15 回インターネットセミナー開催

第15回「教会とインターネット」セミナーが1月14日に目黒教会で 行われました。参加者はスタッフも含めて50名余。今回から東京、横浜、 さいたま各教区の司祭月集を通して案内チラシの配布を試みましたが、 参加者は意外に増えなかったのは残念です。

今回の基調講演は、イー・ピックスの熊谷雅也さんにお願いしました。 熊谷さんは被災地の大船渡で印刷と出版社を経営されています。印刷会 社から地方出版を目指す会社イー・ピックスを立ち上げた話に始まり、





■大船渡の医師山浦玄嗣さんの『ケセン語訳聖書』の出版をめぐる話、そして今回の津波で工場 教会・インダーネッが被害を受けた話を生々しく報告された。とくに倉庫にあった『ケセン語訳聖書』が津波に浸 『かり売り物にならなくなったのに、それが新聞やテレビに報道されると「羽が生えて」飛ぶよ うに売れ出したという話は聞く人を感激させる話でした。

> 仙台中央地区広報委員会の岩井さんの、被災地の写真とメッセージだけのシンプルなスライ ドショーを使っての報告も胸を打つものでした。

> そのほかにも釜石の復興を定点観測しようとした SNN のビデオ「あの日から」も紹介され ました。

今回は「震災、教会、インターネット」というテーマでした。震災後1年を経てようやくこ ィー・ピックス熊谷氏のテーマが語れるようになったという段階のセミナーであったと思います。(土屋)

第36回日本カトリック映画賞決定

第36回日本カトリック映画賞が決まりました。今年の受賞作は、砂田麻美監督の「エンディングノート」です。

授賞式と上映会: 5月12日午後1時から (開場12時30分)

会場:川崎市アートセンター アルテリオ小劇場

チケット: SIGNIS メンバーからの購入もしくは、聖イグナチオ教会案内所、スペースセントポール、サンパウロ書店(四谷駅前)、高円寺教会 天使の森、川崎市アートセンターで扱っています。

当日は、授賞式の後、「エンディングノート」の上映を行い、その後砂田麻 美監督と晴佐久神父様との対談が予定されています。

長崎教区広報委員会が SIGNIS の団体会員に!

一昨年、昨年と日本カトリック映画賞受賞作品の長崎上映会を共催された、カトリック長崎大司教区広報委員会が SIGNIS JAPAN の団体会員になってくださいました。これからは同じ仲間として、メディアを使った福音宣教について一緒に考え実践していきたいと考えています。(町田)

第36回 日本カトリック映画賞 授賞式&上映会

エンディングノート







主催 SIGNIS JAPAN

(カトリックメディア協議会)

後援 カトリック中央協議会広報

お問い合せ 女子パウロ会内 事務局 担当 大沼 TEL.090-8700-6860 info@signis-iapan.org

日帰り合宿(SIGNIS JAPAN オフサイトミーティング)

去る1月9日(祝日)に SIGNIS JAPANでは、多摩教会の信徒会館のお部屋をお借りして朝から夕方まで日帰り合宿をいたしました。日頃の時間やテーマの制約を離れて、よりよい SIGNIS JAPAN を目指して、各人の日頃の思いを語り合い、どうしたらよいか、どうあるべきかを話し合いました。

進行役は土屋至副会長で模造紙に各人の意見・感想を整理し、皆で共有しました。夕方ごミサに与り、その後は懇親会と充実した一日でした。具体的な変化はこれからのことになりますが、参加者全員なにかスッキリした感じをもつことができたと思います。(町田)

会員紹介

| 天国映画村(団体会員) – スクリーンの向こうに見える天国

天国映画村は「スクリーンの向こうに天国が見える」を合い言葉に 1991 年 7 月 14 日、カトリック高円寺教会で開村いたしました。早いもので今年 23 年目を迎えます。活動を通じて生涯の宝となるような数多くの映画と、映画を愛するかけがいのない仲間たちとも出会う事が出来ました。

最初の宿題映画はフランス映画「マルセルの夏」…懐かしくて、まるで 天国を垣間見るような作品でした。

開村以来、毎月選定した「宿題映画」をメンバーそれぞれが映画館で鑑賞、天国映画村の開催日に教会に集まり、神父さまを囲んで「分かち合いの会」をしておりました。しかし中心メンバーの高齢化など、年々各自で映画館に足を運ぶことが困難な方が増えてきました。そこで数年前からは



映画館に足を運ぶことが困難な方が増えてきました。そこで数年前からは「映画の分かち合い」のために「DVDによる映画観賞会」も開催しています。「マザー テレサ」「ブラザーサン シスタームーン」「マリア」「おくりびと」「グラン トリノ」など数多くの映画作品を選び、森司教様をはじめ多くの神父さまをお招きしてお話しいただき、楽しく、実りある時間を多くの方々と共にしてまいりました。

また2004年からSIGNIS JAPANの団体会員となり「日本カトリック映画賞」の選定メンバーとして、それまではあまり見る事のなかった日本の作品も見るようになりました。SIGNISのメンバーとして初めての選考作品は「ライファーズ―終身刑を超えて」。この作品は私たちにとっていろいろな意味でターニングポイントとなった作品です。

私たち「天国映画村」はいつも〈教会に新しい仲間を招くこと〉を夢見て活動しています。



「スクリーンの向こうに見える天国」を多くの方に伝えていけるように、今日も映画館に足を運んでいます。映画の大好きな方、SIGNISメンバーとしてご一緒にカトリック映画賞の選考に携わってみませんか?

特集 あの日を忘れない - 東日本大震災

釜石への支援活動を通して

カリタスジャパン 釜石ベースキャンプベース長 舟山 亨(仙台教区)

未曾有の大災害、震災直後のカトリック釜石教会では、地域の人々と支え合いながら、小さな復興活動を始めましたが、そのうち、仙台教区ではサポートセンターが立ち上げられ、全世界からの支援を受け入れるために、4月2日、「カリタスジャパン釜石ベースキャンプ」として、被災地釜石への支援活動を開始いたしました。今までの1年間、国内外から述べ1500人を超えるボランティアさんが訪れてくださいました。同時に、たくさんの支援物資が送られ、受け取られた皆さんがとても喜んでおられました。皆さん、ありがとうございまし



被災地の状況は刻一刻と変化しております。現在、支援物資はお 受けしておりませんが、仮設住宅への支援が急務となっており、主 に「傾聴」活動が中心となっております。そこには、1年たっても、 未だに続くさまざまな苦しみと、肉親の死に直面した人々の途方も ない喪失感、最悪の場合自死に至ることもあり得るため、待ったな

しの迅速なケアが求められております。最近の活動は、がれき

の撤去よりも傾聴活動が増えてまいりましたが、それは、年齢を重ねた人生 の先輩方でも、関わることができるということです。まだまだ復興の光が見 えない現場の状況は、直接見ていただかないとわからないと思います。ぜひ、 現実を見てください。そして、感じたことを身近な人々にお伝えください。 現場からの切なる願いです。



「その一言を聞きたかった」

SIGNIS JAPAN 顧問司祭 晴佐久昌英(東京教区)

東日本大震災の1週間後に、教会報に「地は震えても、天は揺るがない」というタイトルの文章を載せた。どれほど大きな災害であろうとも、今こそキリスト者は信仰を奮い立たせて不滅の希望を語り、具体的に愛し合いながら目を覚まして祈ろうではないかという内容で、最後をこう結んだ。「怖いのは地が震えることではありません。地と共に私たちの心が震えて神を見失うことです。今こそ、神の愛に立ち帰るとき。地は震えても、天は決して揺るぎません」。震災の直後、人々の心が大きく傷ついて、底知れぬ恐れを抱いているのを強く感じたからだ。震災の2か月後に初めて被災地を訪ねてからは、ますますその感を強くした。がれきに埋もれた街や港は確かに壊滅的で悲惨だったが、実は目に見える光景にもまして悲惨なのは、目には見えない心の風景なのだった。出会った人々がつぶやくように語ってくれたその心の中こそがまさに壊滅的であり、何よりもまず必要なのは、目に見える物資や援助もさることながら、まずは目には見えない信仰や愛、福音の宣言や救いのことばであるという確信を持った。

以来、毎月のように被災地を訪ね、気づけば南は福島から、塩釜、石巻、南三陸、気仙沼、陸前高田、大船渡、釜石、大槌、宮古、田老と、多くの地を周ってきた。各地でミサを捧げ、講演をし、信者宅や病院を訪ね、ボランティアのベースを励まし、避難所を訪問し、仮設住宅でおしゃべりをし、できる限りの機会に福音を語って来た。中には「その一言を聞きたかった」と言ってくれた人もいた。それまでは気おくれして断っていた説教のラジオ放送を受諾したのも、ホームページでの公開を再開したのも、人々がどれほど福音のことばに飢えているかを実感したからである。

福音には、力がある。特に、苦難の現場では。私たちキリスト者は、あらゆる悪を善に変えてくださる神の愛を証しするために、東日本大震災という悪に向かって、徹底して福音を語り続けるよう召されている。

現在、カリタスジャパンが被災地でのボランティアを急募しています。一時期に比べボランティアの数が激減。教会として十分な支援が行えない状況が続いているそうです。かくなる僕も、震災発生初期からカリタスを通じて被災地支援に関わりながら、かれこれ半年以上、東北に足を踏み入れていない人間です。自分に出来ることを模索しながら、やはり複雑な想いです。

今年の3月11日はイグナチオ教会で朝のミサに与りました。震災発生当時、僕は偶然この教会の近くにいましたが、シンボルである巨大な十字架が折れ、ぶら下がっていた姿をはっきりと覚えていますし、そのインパクトはやはり衝撃的なものがありました。現在は安全のため、その十字架は取り外されています。1年前にこの場所にあったはずのもの、十字架の失われた教会……。1年たったこの日、その意味をずっと考えていましたが、どうしても後ろ向きになりがちでした。

同じ日の夕方、とある神父さまと教会の青年活動について話していると、活動の 在り方についてこんな問い掛けをされました。



震災直後のイグナチオ教会 鐘楼の十字架

「そこに十字架がありますか?」

神父さまは、活動への関わり方がイエスさまの姿に倣ったものですか? といった意味の問い掛けをされたと 思うのですが、その日ずっと考えていたことが一つ解けた気がしました。

去年の3月、物資不足など混乱の続く関東で、多くの方の支援と想いを受け、被災地に向かわせていただきました。今、自分にできることは何かを精一杯考え、奔走された方々の姿は忘れられません。掲げられた十字架をただ見上げるのではなく、皆で背負った、本当の教会の姿だったのだと思います。

1年が経ち、未だ被災地では苦しい状況の続くなか、私たち一人ひとりがやるべきことを模索しきれているのだろうか……。

「そこに十字架がありますか?」掲げる十字架を失った教会は、そんな問い掛けを私たちにし続けている気がします。

カリタスジャパンブログ http://caritasjapan.jugem.jp/ ※ボランティア情報などがあります。ご覧下さい。

SIGNIS JAPAN とは

SIGNISとは、世界 140 カ国に広がるカトリックのメディアに携わる人々の世界組織です。平和文化の促進,人間の尊厳擁護。子どもの権利擁護が近年のテーマです。司祭、修道者、一般信徒が参加しています。映画、放送、視聴覚、最近ではインターネットを活用した福音宣教に力を入れています。日本では、サンパウロ、女子パウロ会、カトリック中央協議会・広報のほか,ボランティアの信徒が積極的に活動しています。カトリック映画賞、イ

ンターネットセミナー のほか、これからはイ ンターネット放送局 (SNN) への取り組みな ど、さらに活動の幅を 広げていきたいと考え ています。



賛助会員になってください!

私たち SIGNIS JAPAN の活動をサポートしてくれる賛助会員を募集しています。年会費は一口 3000 円。ご入会いただける方は、氏名、住所、連絡先を下記にお知らせください。年会費およびご寄付は、銀行口座または郵便振替口座にお振込をお願いいたします。

銀行振込 三菱東京 UFJ 銀行 六本木支店

普通 1679019

SIGNIS JAPAN 代表 千葉茂樹

郵便振替 口座番号 00100-0-594547

口座名称 SIGNIS JAPAN

代表者 千葉茂樹

連絡先:〒107-0052 東京都港区赤坂 8-12-42

女子パウロ会内 SIGNIS JAPAN

info@signis-japan.org http://signis-japan.org/